しいでした。
自分というものをかえりみれば、唯夢中でハンドボールに没頭し、頭を使ってやる事のないものでした。しかし卒業後、合宿生活をしている後輩達をみると、何と恵まれているのであろうと思います。晩には三ミーティングする事によって、より詳しくルールを収得し、団結が一層固まり、より良い効果をあげているからです。そして私達も、もっとやれば良かったと思い、生意気にももっと強くなっていたのにと語り合っています。
真冬でも、又、真夏でも、短い袖の練習着を身につけ元気よく運動場に飛び出し、真暗になるまで飛び回ったものです。ハンドボールの試合をみるたびに、練習したいなあと思います。そしてこんな苦しみ？に比べて他の事など何でもない、少し位でへこたれてはいけないと心にいい聞かせます。
最後に、ハンドボールをした事によって、ジャンプシュート等を収得しましたが、しかしそれにも増して、どんな事にもくじけないがまん強い精神がつちかわれた事、チームワークの重要さを理解した事等、これが私の三年間のハンドボールクラブ員としての生活の中で最大の収穫だと思います。
完

十三期生

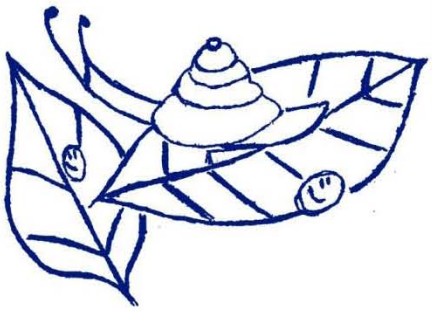
有意義なハンドボール生活

安村かつる

私は今ハンドボール部に入部した事を深く後悔している。なぜなら、文才のない私にまで原稿を書くようにとの脅迫電話がかかってくるから……。随分ねばったけれど、編集員の熱心さにはとてもかなわないとあきらめた。
自分の高校生活を振り返ってみて、クラブ活動の事を除くと、ほとんど何も残らないように思える。学校には、毎日ハンドボールをするために通ったようなものである。それほど熱心に練習したにもかかわらず、試合成績のかんばしくなかったことは、まことにもって不思議である。だが、負け惜しみみたいだけれど、弱いチームにほ、弱いチームなりに強い良さがあるものだ、なんていつも試合に負ける度に皆で話しあったりしたものだ。そしてたまに善戦した時のあの大いなる喜びよ!!
一年生の時だったか、試合の時はつねに食料を仕入れておいて、試合が終るや着換えもそこそこにして、お弁当その他を広げて、皆で丸くなって食べたのは、最も楽しい思い出の一つである。今でもそのパクツイ

テイル時の皆の本当にうれしそうな顔や、大きくあけた口をはっきり思い出す事がで来る。（まず食物の話で申し訳ない。）

女子ハンドで合宿を始めたのは、私達の代からですが、その時は何分初めての事なので先輩の方々に随分御迷惑をかけた事と思う。一回目の合宿の時は、遊ぶものまで持ってくる事に気が付かなかったので、先輩のオがトランプを持って来て下さった時はうれしかった。皆、覚えたての〝ナポレオン〟に熱中してしまって、食事前のちょっとした時間や、洗濯の合間など寸暇を惜しんで、トランプをしたこともあった。真夏のカン〳〵照りの中での練習はすぐのどがカラ〳〵になってしまう。練習が終るやいなや水道目がけて突進する。そのお水のおいしい事〃〃。このおいしい水を飲むために、次の日もシンドイ練習に参加する。思い出すと楽しかったような気がする合宿も考えてみると、最後の日に近づくと足が動かなくなったりしたし、練習も一つ〳〵考えてみるとシンドかったことばかりだけれど、それでもなをクラブ活動を思い出す時楽しくなるのは、何もハンドボールが楽しいのでなく、ハンドボールによって固く結ばれた友情によるものではないでしょうか。その、より強固な友情をつくり出すためにも、やはり練習は厳しいものでなくてはならないし、初めにやセガマンを言ったけれど、やはりクラブは強い方が良い。後輩の皆さん、どうか頑張って強いチームを作って下さい。（そのためにも、こんな部史をつくる暇を、練習に回して下さったら私の方も助かったのですが！！！）

我々女子の先輩陣も、今後出来る限り、老体にムチ打って練習に参加したいと思っています。とにかくこれで、何個か文字を並べることが出来、編集員に対する面目もほどこしたようですので、最初の〝入部し後悔している〟という所を取り消し、やっぱり〝ハンドボールをして良かった〟ということで筆を置きます。

完